

核兵器をなくそう！ 被爆者を支援しよう！

核兵器廃絶 ネットワークみやぎ

核廃絶ネット通信

第1号

2021年

2月15日発行

新しい会として
リスタートします！



2017年から3月から活動をしてきた「ヒバクシャ国際署名連絡会宮城」は、1月22日の核兵器禁止条約発効という記念すべき日に、メモリアルイベントを行い、約4年間の活動を終わりました。



中央の連絡会も、2月5日に解散イベントをオンラインで行い、木村会長もZoomで参加して宮城の報告をしました。(右図の左上に移っているのが木村会長)。連絡会の最終集約数は、宮城で14万筆、全世界で1370万筆になりました。皆様のご協力、本当にありがとうございました！

1月20日会議を行い、今後の活動を話し合った結果、「核兵器廃絶と被爆者支援に関して、今後半永久的に活動を行う連絡会にしていこう」と意見が一致し、「核兵器廃絶ネットワークみやぎ（略称：核廃絶ネット）」と会の名前を決めました。

そして、当面は、日本被団協が始めた「日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名」に取り組むことにしました。ヒバクシャ署名は曜日や日付が固定されておらず分かりにくかったという反省もあり、「条約発効日記念の22日」と固定することで、皆さんに参加していただくように2月22日から開始することも決めました。ぜひご協力ください。

第1回目の会議は3月22日に署名行動の後に行います。まだ継続加入のご連絡をいただいている団体・個人の皆さんも、ぜひ引き続き会の活動にご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします！

<今後の予定>

署名行動（平和ビル前）

2月22日（月）12時～13時

3月22日（月）12時～13時

会議（福祉プラザ）

3月22日（月）14時半～

「核兵器の終わりの始まりの日」記念イベント

1月22日、核兵器禁止条約が発効するという歴史的な記念日に、ヒバクシャ国際署名連絡会宮城として最後のイベントを行いました。コロナ禍の中で参加者数が心配でしたが、70名の参加でした。また、オンラインで20名近くが視聴しました。

開会のあいさつで、木村緋紗子会長は1300万を超える署名が集められたことへの感謝と、ようやく条約が発効したことの喜びを語り、「しかしこれはあくまでもスタートであり、日本政府が批准しないことは本当に悔しい。核兵器が廃絶されるまで、皆さんと一緒に頑張っていきたい。」と決意を述べました。



第1部は、環境活動家の武本匡弘さんに、「海も空も青いままで未来へつなごう～気候変動も核兵器もない世界へ～」というテーマで、オンラインで講演をしていただきました。豊富な写真資料を示しながら、「気候変動」「戦争と核兵器」「私たちにできること」という構成でお話されました。気候変動はもう「気候危機」とよばなければならないほど逼迫しており、珊瑚の白化現象や海洋プラスチックゴミの現状を見せてくださいました。このままでは若者に未来はない、自分の生活を変えるくらいの「気候正義」という意識を持つことが大事だと武本さんは訴えられました。そして、環境破壊の最たるものが戦争や核兵器であり、辺野古などの基地建設、戦争の後始末として武器や戦車などの海洋投棄も含まれること、マーシャル諸島の水爆実験の被災地の様子なども紹介してくださいました。気候変動も核兵器も根本は同じで今の社会を変えるしかなく、そのためにも組織団体等に所属してみんなで声をあげることが大事で、「知ることが希望」と、力強くお話しされました。とても分かりやすいお話で、参加者は「とてもいいお話を聞いてよかった。」と感想を述べていました。

第2部は、まず在仙のシンガーソングライターの伊東洋平さんのライブ。戦争を風化させないために子どもたちの声を集めて作った「優しさの色の歌」を披露してくださいました。とても素敵なメロディと歌詞で、心に響く歌声でした。



そして、毎年「原爆死没者追悼平和式典」で演奏をしてくださっているチェリストの塚野淳一さんの演奏会でした。バッハの曲を中心に、チェロの魅力が伝わってくる選曲で、癒しのひとときになりました。「バッハさん」は「小川さん」という意味であることや木村会長との出会いなど、トークも大変面白かったです。



終わりのあいさつは事務局の遠藤さん(生協労組委員長)から。連絡会のこれまでの取り組みの報告と、新たに「核兵器廃絶ネットワークみやぎ(略称 核廃絶ネット)」として引き続き活動していくこと、当面、被団協の日本政府に条約批准を求める署名行動に取り組むことを発表しました。